



普及だより



●編集発行

大隅地域振興局農林水産部農政普及課
肝属地域農業改良普及事業協議会
ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/chiiki/osumi/index.html>

鹿屋市打馬2丁目16-6
TEL：0994-52-2145
FAX：0994-52-2147

平成23年度 普及活動の方針について

平成23年度の普及活動の実施に当たっては、肝属地域の農業振興上の課題や農政の課題、方針を踏まえ、また農業者や関係機関・団体と連携を図り、計画的かつ重点的に次のとおり普及活動を進めます。

1 肝属地域農業の発展を支える担い手づくり

地域農業を担う人材等の育成のために、認定農業者及びその志向農家、集落営農組織等の担い手を対象に技術・経営の改善支援を行い、経営感覚に優れた経営体を育成すると共に、農業・農村に積極的に参画する女性の能力向上を図ります。

また、青年農業者に対する経営・技術習得の支援や組織活動、プロジェクト活動の充実を図り、将来の地域農業の担い手としての自覚を促進すると共に、農業者としての資質向上を図ります。



H22 年新規就農者を励ます会

2 環境と調和した付加価値の高い農業を実現する産地づくり

野菜、畜産、茶、果樹、花き等の品目について、試験研究での開発技術や現地での組み立て技術及び畑かん技術等、高度・多様な技術の確立と普及を図ります。また、安心・安全な農畜産物生産推進のために、耕畜連携、かごしまの農林水産物認証制度等への取組を推進します。

同時に、農畜産物の高付加価値化を推進し、消費者の多様なニーズに応えられる競争力のある産地づくりを推進します。



セリ市前学習会

3 持続的な農村地域の振興

地域営農の基幹となる水稻や甘藷の振興を図るとともに、特産作物について地産地消を基調とした流通促進を図ることで、地域振興の動きを加速します。

地域内の労働力補完システムとしての営農組織の育成を図りながら、地域の実態に即した望ましい農村地域の振興を進めます。



営農組織による飼料稲の収穫

指導農業士・女性農業経営士・青年農業士認定者の紹介

○ 指導農業士 ○

優れた農業経営を実践し、青年農業者の育成に対する熱意と指導力があり、地域の中でも意欲的に活動している農業者として、3名が指導農業士に認定されました。



大平和章さん
(鹿屋市 露地野菜)



山中健治さん
(鹿屋市 生産牛)



白田義文さん
(南大隅町 果樹)

○ 女性農業経営士 ○

農業経営に積極的に参画し、農家生活や農業経営等の改善及び地域農業の課題解決に、積極的に取り組むことが期待される女性リーダーとして認定されました。



村山みつ子さん(鹿屋市 酪農)

○ 青年農業士 ○

農業技術・経営に関する一定の研修を終了し、プロジェクト活動に取り組んで成果を上げ、地域農業のリーダーとなり得る農業青年として、1名が青年農業士に認定されました。



大平龍美さん(鹿屋市 苗物)

受賞おめでとうございます！

○全国優良経営体表彰○

全国協議会長賞

農林水産省と全国担い手育成総合支援協議会が共催する全国優良経営体表彰で、鹿屋市の(株)マルキヨさんが着実な経営改善の取組が認められ、法人経営部門で「全国協議会長賞」を受賞されました。



(株)マルキヨ 代表 清水章一郎さん(鹿屋市)

肝属の花の魅力を地元の消費者に発信

3月11日(金)～13日(日)の3日間、肝属地区花き振興会(会長：鹿屋市福永俊昭氏)では以下のような行事・イベントを開催しました。

1 第19回肝属地区花き品評会

今年度は厳しい寒気にも見舞われましたが、しっかりと栽培管理されたキク、ユリ、洋花等46点(前年比4点増)出品されました。

審査員からの高い評価のなか、商品性、出品技術などに優れた18点の入賞品を選出し、大隅地域振興局長賞には鹿屋市吾平町の波江野秀樹氏のスターチスを選定しました。



中央が波江野氏のスターチス

<特別賞の受賞者>

区分	氏名	団体・市町村	部門	(上)品目名・(下)品種名
鹿児島県大隅地域振興局長賞	波江野 秀樹	吾平町花き生産組合	洋花	スターチス
				シースルーホワイト
肝属地区花き振興会会長賞	中辻花卉園	串良町花き振興会	スプレーギク・小ギク	スプレーギク
				まり風車
株式会社鹿屋市園芸花市場社長賞	富田バラ園	南大隅町花き振興会	洋花	バラ
				ミスティックワ
鹿児島県花卉園芸農業協同組合長賞	平原 辰雄	鹿屋市花き振興会	輪ギク	輪ギク
				神馬2号
審査員特別賞	福永 俊昭	鹿屋市花き振興会	ユリ	テッポウユリ
				エンゼルホルン

2 フラワーアレンジ実演会・展示会

今年度は品評会終了後、プラッセだいわにおいて「品評会の入賞品、青年部によるアレンジ作品などの展示」及び「花屋(佐野和彦氏：フラワー装飾1級技能士)によるフラワーアレンジ実演会」なども行いました。会場には多数の消費者に加えて生産者も15名来場し、地元の花を使った楽しい実演会などを前に、大いに親睦が深まった様子でした。



花屋さんによる実演の様子



展示物に見入る消費者

農作業事故を防止しましょう！

昨年度も管内で農作業事故が多発し、亡くられる方がいらっしゃいました。慣れた機械でも農作業用機械は、自動車の運転のようにスムーズに運転することができません。初心に返って安全運転に努めましょう！！

1 本県の農作業死亡事故の推移等

農業の機械化が進む中、本県の農作業死亡事故は減少せず、増加の傾向にあります。なかでも、農業機械による死亡事故が大半を占め、毎年10件以上の発生がみられます。機械の種類は、トラクターが最も多く、ついで耕うん機、動力運搬機が多く、事故の大半を占めています。

事故の内容は機械の転落・転倒によるものが最も多く、事故全体の大半を占めています。

表1 本県の農作業事故の推移

事故の種類別	H20	H21	H22	計	年平均	比率
農作業死亡事故	14	19	8	41	13.7	
うち農業機械によるもの (比率)	12	19	6	37	12.3	90%
	86%	100%	75%	90%	90%	
機械の種類						
トラクター	3	11	3	17	5.7	45.9%
耕うん機	3	4	1	8	2.7	21.6%
動力運搬車	4			4	4.0	32.4%
ホイールローダ		2	1	3	1.5	12.2%
田植機	1			1	1.0	8.1%
動力刈払機	1			1	1.0	8.1%
その他	1	2	1	4	1.3	10.8%
性別						
男性	7	18	5	30	10.0	86.5%
女性	5	1	1	7	2.3	13.5%
平均年齢(歳)	73.4	71.4	68.0	67.5	70.9	
65歳以上の高齢者 (比率)	7	16	5	54	9.3	73.0%
	58%	84%	83%	73%	73%	

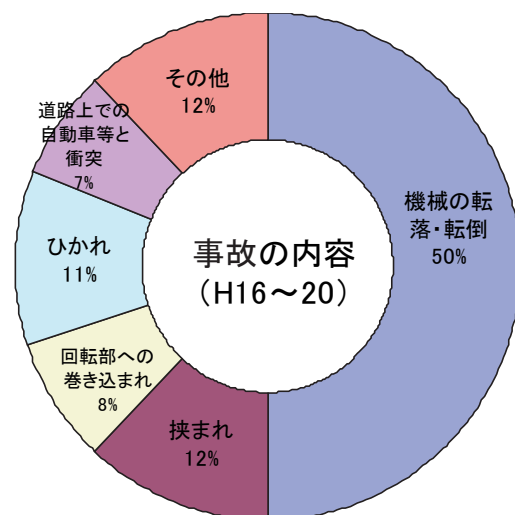


図1 事故の内容

注: 各年とも、1月～12月までに発生した件数である。平成21、22年は新聞記事等から収集した数値。

2 農業機械死亡事故の特徴

本県では、農業機械死亡事故のうち約8割がほ場と道路上で発生しています。これは全国とほぼ同じ割合です。つまり、トラクター等の路上走行が可能な機械での事故が多いということです。

ほ場での事故をさらに詳しく分類すると、半数以上の事故が走行中やほ場の出入り口で発生しています。「倉庫から出して、倉庫に戻すまで」が農業機械作業であるという意識を持ち、農業機械を動かしているときは常に注意を払う必要があります。

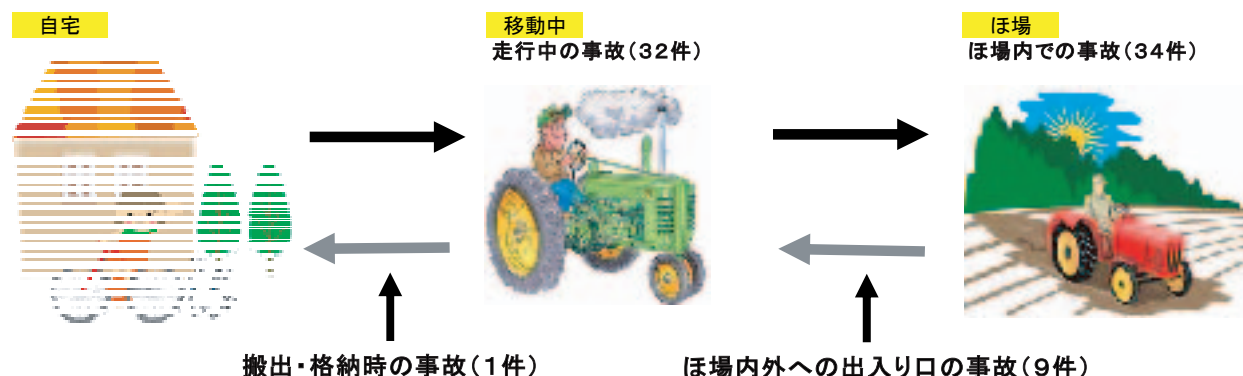


図2 場所別事故発生件数 (平成17~22年度県調査データ)

トラクターでの事故が大半を占めるので、 事故を防ぐために、以下のことに注意しましょう！

○ 特に注意すること

1. 安全フレーム等の安全装置は、必ず規定の位置で使用し、運転中は必ず安全フレームを立てる。
2. 作業中及び道路走行中は、シートベルトを着用し、ひも付きヘルメットを着帽する。
3. 道路の路肩やほ場の畦畔部は崩落しやすいので注意する。
4. 危険を伴う狭い道路や急な坂道、狭いほ場等では必ず安全を確認し、無理な運転は避ける。
5. 作業に出る際は、家族等に行先と帰宅予定時間を告げておく。
6. 体調不良や高齢等で作業が困難な場合は、農作業受委託組織等に作業を委託する。

○ 道路走行中の注意点

1. 道路走行中は、左右のブレーキは必ず連結しておく。(片ブレーキは圃場内のみとする)
2. 道路走行中は前輪倍速装置を解除する。
3. 対向車を避けるときは、路肩に寄りすぎないようにする(雨天時は特に注意!!)。
4. 坂道、でこぼこ道、カーブの多いところでは速度を落とす。
5. 高速走行中の急旋回や坂道、傾斜面での急旋回は転倒の恐れがあるので絶対行わない。
6. 坂道や傾斜面の途中での変速操作やクラッチ操作は、暴走の危険があるので絶対に行わない。
7. 急な坂道や傾斜面での急発進は後方転倒の恐れがあるので行わない。

○ ほ場内での注意点

1. ほ場内で旋回する際は、畦畔に寄りすぎないようにする。(雨天時は特に注意する)
2. 溝やぬかるみからの急脱出は、後方転倒の恐れがあるため絶対に行わない。
3. ほ場での作業は、横転を防ぐため、15度以上の傾斜地では作業しない。

○ ほ場出入口での注意点

1. 畦畔を超えてほ場に入ったりする場合は、直角に入ったりし、段差が大きい場合は十分な強度のある「あゆみ板(ブリッジ)」を用いて低速で運転する。
2. ほ場の出入口が急傾斜の場所では低速で運転する。
3. ほ場の出入口付近は、路肩が弱く、狭くて急な坂道や傾斜面が多いため、安全を確認した後、機械を運転する。

○ トラクターの積み降ろし時の注意点

1. トラックへのトラクターの積み降ろしには、十分な強度のある、高さの4倍以上の長さの「あゆみ板」を用い、低速のバック走行で積み込み、前進で下りる。
2. 積み降ろしの途中では、変速操作及びクラッチ操作は行わない。



県では農作業事故防止のために農業大学校等で農業機械士育成、農業機械士応用、農業機械特別(ホイールローダー等)、農作業安全の研修を実施しています。詳細は農政普及課又は市町にお問い合わせください。なお、農業大学校のホームページにも詳細を記載しています。

知って得する! 技術情報!! ～作物編～

トビイロウンカの防除について

近年、トビイロウンカ（通称：秋ウンカ）による坪枯れ被害が多くみられるようになりました。トビイロウンカによる坪枯れ被害は、収量におおきな影響を与えるため、しっかりと防除する必要があります。今回、トビイロウンカの防除方法について紹介します。

1 トビイロウンカとは？

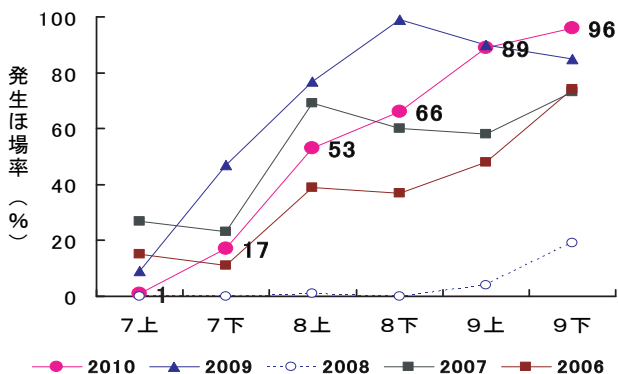
ウンカ類は、6月下旬～7月中旬の梅雨前線の通過に伴って海外から飛来します。飛来するウンカの種類は、セジロウンカ、トビイロウンカ、ヒメトビウンカの3種類になります。ウンカ類の飛来量は年々により変化しますが、トビイロウンカは、飛来数が少なくても卵を産み世代更新を続ける中で個体数が増加し、坪枯れをおこします。



(写真)トビイロウンカによる坪枯れ被害
株基には無数の幼虫が



2 近年の動向



近年のトビイロウンカの発生ほ場率の推移をみると、7月上旬から8月下旬にかけて、急激に発生ほ場率が高くなっていることが分かります。これは、海外から飛来したトビイロウンカが産卵し、その後の世代が進むにつれ、急激に個体数が増加している事を表します。

(図) 年次別トビイロウンカの発生ほ場率の推移(鹿児島県病害虫防除所調べ)

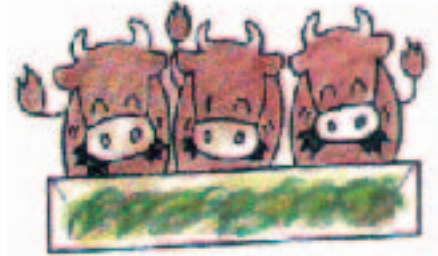
3 防除の考え方

- (1) 普通期水稻では、移植時に箱施薬剤を使用しますが、以前に比べて持続効果が短くなっており、本田防除が必要になります。
- (2) 本田防除は、海外から飛来したトビイロウンカが産卵し、ふ化した第二世代を防除するのが効果的です。近年の防除時期の目安としては、7月下旬～8月上旬です。但し、トビイロウンカの飛来時期は毎年異なるため、飛来情報を確認のうえ防除することが効果的です。
- (3) トビイロウンカは、水面から約 20cm 位の位置に多く生息します。そのため、出穂後の防除では十分な効果が認められません。早めの防除が必要です。

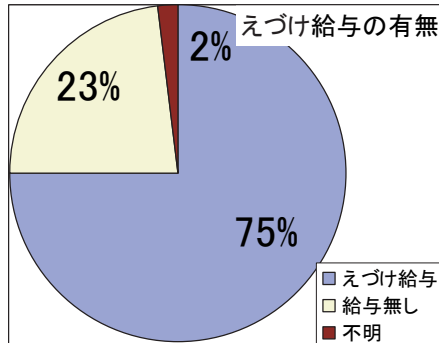
知って得する! 技術情報!! ～畜産編～

哺育期の管理と注意点 (アンケート調査結果より)

子牛の哺育期はセリでの商品性を一番大きく左右する時期です。関係機関の協力により、2月に行ったアンケート調査結果で分かった哺育期の管理の注意点について、もう一度おさらいしましょう。



1 えづけ飼料を給与していますか？



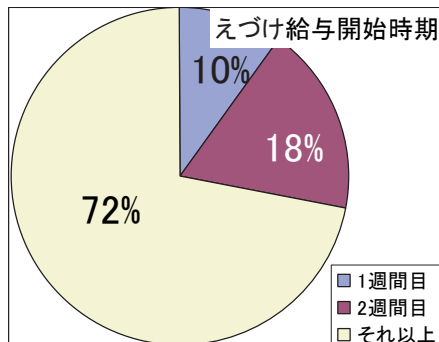
【現状】 約1/4の方がえづけ飼料を使っていません。

《改善》 えづけ飼料の必要性を再確認！

- ・ えづけ飼料は、まだ胃が十分に発達していない子牛のために必要なDCP（可消化タンパク質）や粗脂肪が高く、育成飼料と同じ量を与えても発育は大きく変わります。
- ・ えづけ飼料にもいろんなタイプがあるので、自分の飼い方にあったタイプを選びましょう。

目標1: 商品性の高い肝属子牛を作るため、えづけ飼料の利用率100%を目指しましょう！！

2 えづけ飼料を給与してる方にもまだまだ課題が…？



【現状】 えづけの給与開始が生後2週間以上の方が7割もいます。

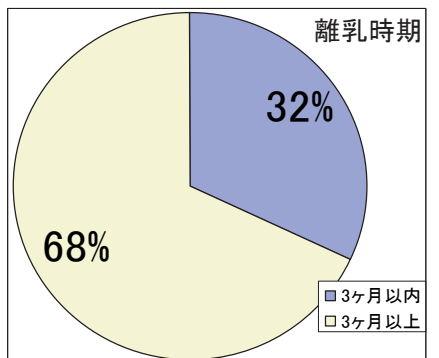
《改善》 子牛の絨毛を発達させる意識を持とう！

- ・ なるべく早くえづけ飼料を与えないと、腹作りが遅れるだけでなく、敷料や親のサイレージなどを盗食し、下痢や感染症などの原因になります。
- ・ 仕切りを作るなど工夫し、子牛専用の小さなえさ箱を設置して、えづけ飼料を与えましょう。

※絨毛とは、第一胃壁の表面に発達する組織です。

目標2: えづけ飼料は一週間以内に給与開始できるようにしましょう！！

3 離乳時期はどうやって決めてますか？



【現状】 生後3ヶ月をこえて離乳される方が7割程度います。

《改善》 子牛の発育と離乳の目安を覚えましょう！

- ・ 生後60日齢を過ぎたら、離乳してえづけ飼料のみでも発育に影響はなく、逆に白痢予防や繁殖成績の改善等に効果があります。
- ・ 離乳は月齢より、えづけ飼料の摂取量で決めます。生後2～3ヶ月までに1～1.5kg食べるように管理を工夫して、離乳しましょう。

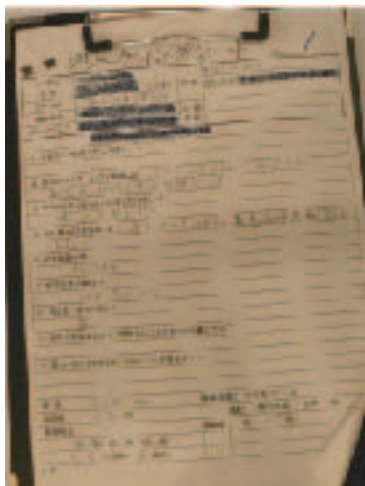


目標3: 離乳は3ヶ月(90日齢)までを目安に！濃厚飼料を1～1.5kg以上食べさせよう！

グリーティングパーティー～農業青年クラブ連協活動～

肝属地区農業青年クラブ連絡協議会は、平成23年3月5日(土)かのや大黒グランドホテルで、グリーティングパーティー(婚活)を行いました。参加者は、大黒グランドホテルの絶大なる協力により集まった独身女性12名と男性クラブ員11名でした。

最初は、物静かに始まったパーティーも終わる頃にはあちらこちらで笑い声が沸き上がり、持ち時間が少なかったとの声もありました。なお、いつのまにかメルアド交換をしている方々もいたようです。



自己PRのための
グリーティングシート



期待を込めてシートに記入



1対1の持ち時間は5分間！



パーティー開始直後はまだ距離感が...

パーティー終了後は、別会場に待機していた既婚農業青年クラブ員(先輩)への結果報告を行い、今後の発展に向けて有意義なアドバイスをいただきました。



反省会では先輩からの適確なアドバイス

大隅地域振興局 農政普及課 の電話が次のように変わりました。用件のある係に直通でかかります。

課長(52)2137 , 農業振興第1係(52)2138 , 農業振興第2係(52)2139 , 畜産振興係(52)2140
経営普及係(52)2141 , 茶普及係(52)2143 , 野菜普及係(52)2144 , 果樹花き普及係(52)2146
FAX(52)2147